

平成 18 年度卒業論文優秀賞の選定結果と講評

大阪市立大学工学部建築学科

選定委員：藤本益美(委員長), 谷口与史也, 谷口徹郎, 大倉良司, 中谷礼仁

1. はじめに

卒業論文表彰制度ができて今回ですでに 11 回目を迎えることとなりました。発足当時、卒業論文優秀賞は、構造、環境、計画の 3 分野から各一編を表彰していました。今年度の論文梗概を見る限り、1995 年の表彰制度発足当時に掲げた『建築学教育の集大成としての卒業論文の教育効果を高める』という目標が達成されつつあるといえます。従って、本年も昨年に引き続き、原則 1 論文を卒業論文優秀賞に選定するという方針を採用しました。選定するに当たり、卒論の完成度は、分野の違い、基礎研究、萌芽的研究あるいは応用研究によって異なることから、評価ポイントは、梗概、プレゼン、質疑応答に焦点を絞っており、内容がいかに優れた論文であっても、プレゼン、質疑応答が稚拙であれば、優秀論文賞候補に該当しなかったことを付記します。

2. 選定経緯

本年度の提出論文は、29 編であり、2 月 23 日の卒業論文発表会終了後直ちに、卒業論文優秀賞選定委員会を開催した。建築学科平成 18 年度卒業論文優秀賞選定方法に従い、各教員の投票結果に基づき、卒業論文優秀賞を選定しました。平成 18 年度卒業論文優秀賞選定方法は、『卒業論文優秀賞は教員による投票によって決定する。卒業論文梗概と口頭発表ならびに質疑応答より、各教員が優れていると判断した卒業論文 3 編を専門領域に関係なく投票する。投票の結果、得票数の最も多いものを卒業論文優秀賞とする。最高得票数が複数の場合は、それらの中から選定委員の議論により決定する。』と規定されています。

各教員の投票結果を以下の集計表に示します。

表 1 平成 18 年度卒業論文優秀賞投票結果

| | 内田 | 岡山 | 儀部 | 黒木 | 桜間 | 高田 | 谷 | 西野 | 原 | 松平 | 松元 | 宮田 | 柳川 | 貝野 | 丸林 | 野村 |
|-----|----|----|----|----|----|----|---|----|---|----|----|----|----|----|----|----|
| 坂 | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| 谷口与 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 谷池 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| 谷口徹 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| 木内 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 梅宮 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| 大倉 | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | |
| 鈴木 | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 横山 | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 中谷 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | ○ | |
| 杉山 | | ○ | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | |
| 藤本 | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| 徳尾野 | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 計 | 1 | 6 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 5 | 4 | 1 | 3 | 1 | 2 | 2 |

投票結果によると、各先生から少なくとも一票が投じられている論文は、16 編もありました。各論文に寄せられた選定理由コメントを表 2 に紹介します。これら 16 編の中で、最多得票 6 を集めたのは、岡山君の論文であり、選定方法に従い、プレゼン、質疑応答、概要を評価し、学術的価値を検討した結果、優秀論文賞に選定しました。

そのほかに多くの得票を得たのは、5 票の松平君、4 票の西野君、松元君でありました。表 2 の選定理由コメ

ントにもありますように、ここに挙げた 3 名の論文以外の論文にも大きな賛辞が寄せられています。これは、学生諸君の卒論に対する真摯な取組みの結果であると思います。

ここで、卒業論文優秀賞に選定された論文の講評を紹介します。

卒業論文優秀賞 岡山喜雄：「超高層免震建築物の模型化および風による振動性状に関する基礎的研究」

講評：免震構造物は、やや長周期地震動に対する不安はあるものの、耐震性向上のため、従来の中低層構造物だけではなく超高層建築物にも使用されはじめています。一般に建物の高層化は風荷重の増大を伴う。特に免震構造物の場合は、長周期化がその傾向をさらに強くすると考えられていた。そのため免震構造物に対する風荷重の評価は実務設計上重要な問題であると考えられるが、現在は全く解明されていないといっても過言ではない状況である。

本論文は、この問題を実験的な手法により解決することを目的としており、特に免震構造物のモデル化について多くの検討がなされている。この模型を用いた風洞実験結果からは、従来考えられていたような風応答の顕著な増大は見られなかった。今後さらなる検討を要するものの、この実験事実が建築分野に与える影響は非常に大きく、本論分の意味もまた小さくはないと考えられる。

公聴会において、分野の異なる方にもその意味を十分に伝えることができていたことは、発表者の説明力を示すとともにその理解力を裏付けるものであり、卒業論文優秀賞にふさわしい研究内容であったと考える。

表 2 選定理由コメント

| | コメント |
|----|--|
| 内田 | 説明質疑応答が的確だったと思います。 |
| 岡山 | 風に対して弱いと考えられていた免振建物の風応答を適切にモデル化した模型を用いた風洞実験で考察し、有益な結果をえている。プレゼンが明瞭で分かり易い。 |
| 儀部 | プレゼンがとてもよかった。現場に赴いて調査し、各建築物を丁寧に評価している点などがとてもよかった。 |
| 黒木 | 番組小学校が従前のコミュニティスクールから、廃校後の地域施設へと変化する過程で地域活動の拠点としての持続性、発展性とその要因を究極的に解明。 |
| 桜間 | 超高層マンションのあり方について、一つの提案の可能性と期待とが見られる。 |
| 高田 | 空間構成と生活との関わりを分かりやすく説明していたと思います。 |
| 谷 | 比較的わかりやすかった。 |
| 西野 | 住ストック活用に向けて、住戸改善の条件、手法をプラン、構法、仮住まい等多面的に捉えている。労作ということは伝わったが、結論をもっとクリアにしてほしかった |
| 原 | 屋根の傾斜角度など検討が不十分な点もあったが文献による調査と模型実験をうまくまとめていた。 |
| 松平 | 自ら課題を見つけ、方法を勉強し、結論へと一貫性がある。木造の継手、仕口の評価が興味深い。 |
| 松元 | 分析をすることによってその考察まで明解にしている。応用、適用例に期待。これまでの考え方と異なった視点から商店街空間を見直した興味深い発表。質問が多く、内容に卒論としてのインパクトがある。時間差利用の実態が生き生きと伝わった。 |
| 宮田 | 地道な調査が評価できる。 |
| 柳川 | 市立大学に学ぶ学生教職員にビル風害に対する認識と注意を促す興味ある発表。質問に対して適切に回答していた。 |
| 貝野 | プレゼンそのものは、非常に良かった。日ごろの討論を大切にしてください。 |
| 丸林 | 目的と結論がはっきりと明示されている。質疑に対して明瞭。 |
| 野村 | 研究として新しい知見を提案できている。話し方がゆっくりで聞き易い。 |

3. 卒業論文発表会に対するコメント

選定理由コメント以外に各先生から、卒業論文発表会に総評としてのコメントを頂いています。コメントは、論文テーマの選び方、研究の進め方、まとめ方に対して、非常に有益であり、表 3 にまとめてみました。進学して修士論文に臨む学生、進級して卒業論文に臨む学生は、テーマ設定から研究遂行(実験・調査、論文執筆、発表)における戒めとしてもらいたい。発表会における注意点に対しては、次年度以降に対応していきたいと思っています。

表 3 総評コメント

| | |
|--------------|---|
| 発表技法に対するコメント | 発表時間をほぼ全員きちっと守り、プレゼンも美しく分かりやすくなっている。 |
| | 全体として出来が良かったように思う。 |
| | パワーポイントの使い方は皆さん上手であった。 |
| | 原稿棒読みに近い発表があった。せっかくの研究内容が過小評価されがちである。 |
| テーマ選択と研究の進め方 | テーマ選択の重要性 |
| | 今年は、事例研究が多く、単なる体験に基づいたレポートとしか見られないものが卒論として認められているような気がする。 |
| | 思い付きで調査してあたり前の結論を導いている研究が多く、学問的関心を引く研究は極めて少なかった。 |
| | 研究の背景となる文献を十分に読み込んでいるとは思えない。 |
| | 個々には、独りよがり、考察や結果についての検討が不十分なものがあつた。 |
| | 結論吟味の重要性 |
| 発表会運営における注意点 | 関連論文は続けて発表した方が良かった。 |
| | もっと質疑の時間がほしかったと思う。 |

以上

(記 藤本益美)